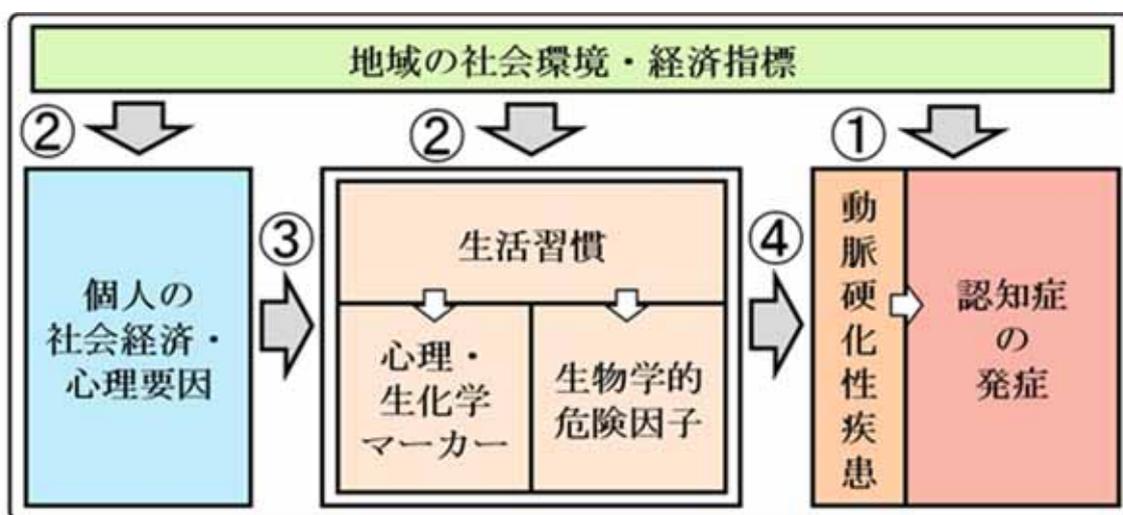


社会環境から個人要因の認知症発症プロセスの解明に関する社会疫学研究

高齢者介護の主要な原因であり、今後益々増大すると考えられる認知症について、その予防を進めるために、地域の社会環境・経済要因から、個人の社会経済・心理要因、生活習慣、心理・生化学マーカー、生物学的危険因子、動脈硬化、認知症の発症への一連のプロセスを解明し、予防対策に資することを目的とする。秋田・茨城・大阪の自治体(CIRCS 研究)や、次世代多目的コホート研究(JPHC-NEXT)の自治体の40~69歳住民約11万人を対象に認知症の発症登録を行い、地域の社会環境・経済要因から個人の社会経済・心理要因、生活習慣、心理・生化学マーカー、生物学的危険因子、動脈硬化性疾患など、認知症の発症に関連する要因について、疫学と社会科学の融合的な研究を通じて、より具体的かつ予防対策の適用できる要因の抽出を行う(下図参照)。すなわち、①地域の社会環境・経済指標の認知症発症への影響、②地域の社会環境・経済指標と、個人の社会経済・心理要因、生活習慣、心理・生化学マーカー、生物学的危険因子との関連、③個人の社会経済・心理要因と、生活習慣、心理・生化学マーカー、生物学的危険因子との関連、④地域の社会環境・経済指標、個人の社会経済・心理要因に密接に関連する生活習慣、心理・生化学マーカー、生物学的危険因子の、動脈硬化性疾患、認知症発症への影響、について解析を行う。



研究種目 / 課題番号:

基盤研究(A) / 26253043

実施年度:

2014~2018 年度

研究代表者:

磯 博康(大阪大学・医学系研究科・教授)

研究分担者:

木山昌彦(大阪がん循環器病予防センター・循環器予防健診部・循環器病予防健診部長)

山岸良匡(筑波大学・医学医療系・講師)

斉藤 功(愛媛大学・医学系研究科・教授)

澤田典絵(国立がん研究センター・予防研究グループ・室長)

本庄かおり(大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・准教授)

中谷友樹(立命館大学・文学部・教授)

野田 愛(順天堂大学・医学部・准教授)

成果概要データベース:

<http://kaken.nii.ac.jp/d/p/26253043.ja.html>